

### 3. 健康体育学科

健康体育学科では、様々なライフステージでの健康開発に寄与し得る指導者の養成を主な目的とし、健康・スポーツの促進に関わる基礎・専門知識や技能などを学修する。専門教育科目には、人間開発学部理念、目的を体現する中核的な教育科目（学部コア科目）、本学科において基幹となる固有の教育科目（基幹科目）を学んだ上で、健康・スポーツ教育において開発されるべき最先端の方向を見据えて構想された「地域教育・生涯スポーツ」「健康・安全教育」「伝統と身体文化」の3つの展開科目類を設けている。そして、教育科目内容の理解を深め実践力を養うための演習・実習には、神経・筋系、呼吸循環系、動作分析に関する演習や野外実習、運動指導力を養成する各種実技系科目などのほか、3年次に「演習」があり、4年次の演習と卒業論文の作成によって学修の総仕上げを行う。また、教員免許取得を目指す学生にとっては「教育実習」がある。その他、「人間開発」への取組をより幅広く豊かなものとするための多様な関連科目も履修することができる。

#### 3-1. 学部コア科目

人間開発学部理念、目的を体現する中核的な教育科目群で、全て両学科共通の必修科目として配置されている。学際的視点によって構築される「人間開発」という本学部の中心理念の基礎理論や教育者・指導者の在り方を学ぶとともに、「人間開発」の基盤をなす本学の建学の精神に基づき「日本の伝統文化」の理解を図る。

#### 3-2. 基幹科目

健康体育学科において基幹となる固有の教育科目群（選択必修）で、3つの展開科目類への橋渡しとなる性格を有している。健康・スポーツを学ぶ基礎となる人間開発基礎論Ⅱや運動学、体育原理、「人間開発」という視点からの健康・スポーツ教育において必要不可欠な、臨床教育学や人間形成の心理学、小児医療などの理論的科目、「運動技能未開発者」の指導や発育期の健康と運動、学校保健などの実践方法探求のための科目を配当している。また、中学校・高等学校保健体育教諭一種免許状を取得するために必要な教育課程及び教育指導に関する科目、教育相談、生徒指導など教育現場で求められる実践的な資質・能力を開発するための科目群も配置されている。

#### 3-3. 展開科目

展開科目類を選択履修することによって、自己の個性と関心に合った得意分野を発見し、その専門性を高めることができる。また、どの展開科目類に偏らない履修方法も可能である。

##### ▼Ⅰ類「地域教育・生涯スポーツ」

人が生活をする環境全体を学びの対象と捉え、学校教育の領域のみならず、地域や一般社会における健康体育・生涯スポーツの指導者となるために必要となる社会科学系の科目を学ぶ。具体的には、スポーツを社会体系の中でどう捉え得るか、また健康の維持・増進を社会生活の中でどう位置付けるか、といった実践的な課題について広い視野を持つことができるように、総合的・学際的な視野で修得した知見を活用する力の育成を図る。

##### ▼Ⅱ類「健康・安全教育」

保健体育教員免許や健康運動指導士などの資格取得に必須の科目を多く配置し、学校や社会において、健康維持・向上のために身体運動を生活の中に取り込もうとする人々を指導するための健康科学・保健に関する科目を主として学ぶ。具体的には、健康維持の考え方の基礎となる「生きること」自体や身体運動に関わる栄養の基礎知識、発育段階や生活習慣、さらに年齢による特性をも理解した上での健康・安全指導能力の育成を図る。

##### ▼Ⅲ類「伝統と身体文化」

日本の伝統や文化を背景とした「生活」の見方や「身体文化」に関わる科目を学ぶ。具体的には、日本の伝統文化と生活に対する理解を深めつつ、代表的な身体文化である武道文化については、その所作や礼法、思想、修行論、身体論などからその特質を的確に理解して指導場面で有効に活用できる能力を培う。さらに、世界のスポーツ全般の歴史等を理解することによって、日本の伝統的な生活・身体文化を国際的に発信する能力の育成を図る。

### 3-4. 演習・実習科目

- ① 運動指導力を養成する実習系の科目が集約されており、知識と技能を活用して運動課題を解決する能力を養う。具体的には、球技系、表現系、武道系の各分野を体験してその特性を知ることにより、各運動種目による人の動きの類似性や相違点を深く理解し、また、各分野から少なくとも一つを履修することにより、包括的な運動を身に付けることで、さまざまな指導法を開発する能力の育成を図る。
- ② 神経・筋系、呼吸循環系、動作分析に関する演習や野外実習により教育科目内容の理解を深め実践力の育成を図る。

### 3-5. カリキュラムの構成と履修方法

健康体育学科専門教育科目の構成とその履修方法は、次のとおり。

科目区分		卒業要件		
専門教育科目	学部コア科目	4科目 8単位必修	合計 74 単位以上	
	基幹科目	3科目 6単位必修 5科目 10単位選択必修		
	展開科目	I 類		2科目 4単位選択必修
		II 類		2科目 4単位選択必修
		III 類		2科目 4単位選択必修
	演習・実習	5科目 7単位選択必修 2科目 6単位必修		
	関連科目			

- 注1) 卒業するためには、専門教育科目から 74 単位以上を修得しなければならない。なお、教育実習に関する科目は、要卒単位に含まれない。
- 注2) 開講科目及び卒業要件の詳細は、P18～20 のカリキュラム表を参照のこと。
- 注3) 卒業論文の詳細は、P26・27 を参照のこと。
- 注4) 教育実習は選択制。2年次の履修登録時に、履修登録を行うこと。
- 注5) 教職・資格課程の詳細は、第5章「教職課程」・第6章「資格課程」をそれぞれ参照のこと。
- 注6) 展開科目 I 類「ボランティアと社会参加」は、小・中学校教員免許状取得希望者に必須である「介護等体験」に参加するための前提となる科目である。
- 注7) 演習・実習科目に開講されている各種「指導法実習」の履修条件は、同一種目の「運動方法基礎実習」が修得済みであること。なお、両科目の開講種目は時間割表を参照のこと。

科目区分	授業科目	開講	単位	開講学年				本-7指導 基礎資格 注1)	水 泳 指導員 注2)	健康運動 指導士 注3)	備 考	
				1	2	3	4					
学部コア科目	人間開発基礎論Ⅰ (人間力育成の人間学)	前期	2	○						8単位必修		
	教 職 論	前期	2	○								
	日本の伝統文化Ⅰ (伝統文化の心と歴史)	前期	2		○							
	日本の伝統文化Ⅱ (日本の近代化と生活文化)	後期	2		○							
基幹科目	人間開発基礎論Ⅱ (ヒトのしくみとはたらき)	前期	2	○					◎	6単位必修		
	運 動 学	後期	2	○					◎			
	体 育 原 理	後期	2		○		△	△		10単位選択必修		
	教 育 の 原 理	後期	2	○								
	教 育 課 程 論	後期	2	○								
	発 達 と 学 習	前期	2		○							
	人間形成の心理学	後期	2		○							
	臨床教育学	前期	2		○							
	学校・学級経営論	後期	2		○							
	教育の方法と技術	前期	2			○						
	授業アセスメント論	半期	2			○						
	道徳教育の理論と方法	前期	2			○						
	特別活動の理論と方法	前期	2			○						
	特別支援教育論	前期	2			○						
	教 育 相 談	前期	2			○						
	生徒指導	後期	2		○							
	保健科教育法Ⅰ	前期	2		○							
	体育科教育法Ⅰ	前期	2		○		◎	◎				
	保健科教育法Ⅱ	後期	2		○							
	体育科教育法Ⅱ	後期	2		○							
体育心理学	前期	2		○		◎	◎					
学校保健	後期	2		○								
小児医療	前期	2		○								
運動技能未開発者の指導	前期	2			○							
発育期の健康と運動	後期	2			○	◎	◎					
青年期以降の健康と運動	後期	2			○	◎	◎	◎				
I類 (地域教育・生涯スポーツ)	教 育 と 社 会	後期	2	○						4単位選択必修		
	地域教育社会学	前期	2		○							
	地域社会と健康指導	前期	2		○							
	ボランティアと社会参加	前期	2	○								
	ジェンダーと社会教育	前期	2			○						
	人権教育論	後期	2			○						
	家庭教育論	前期	2		○							
	企業内教育	通年	4			○						
	体育社会学	後期	2		○		◎	◎				
	体育経営管理論	後期	2			○	◎	◎				
	スポーツ行政論	前期	2			○						
	性別による身体特性	後期	2			○	◎	◎	◎			
	障害者スポーツ論	後期	2			○	◎	◎	◎			
	II類 (健康・安全教育)	健康管理論	前期	2		○					◎	4単位選択必修
		運動処方論	後期	2		○					◎	
		安 全 教 育	後期	2		○						
救 急 法		後期	2		○		◎	◎	◎			
保健社会学		前期	2		○				◎			
疲労・休養の科学		後期	2		○							
機能回復指導論		後期	2			○						
運動への身体適応		前期	2		○				◎			
スポーツ医学		後期	2		○				◎			
衛生学・公衆衛生学		前期	2		○							
展開科目	摂食のしくみと食育	後期	2		○				◎	4単位選択必修		
	スポーツ栄養学	前期	2		○		◎	◎	◎			
	企業の健康管理	後期	2		○				◎			
	コンピュータ分析法	後期	2			○						

次ページに続く

科目区分	授業科目	開講	単位	開講学年				球-7指導基礎資格注1)	水泳指導員注2)	健康運動指導士注3)	備考
				1	2	3	4				
III類 (伝統と身体文化) 展開科目	伝統文化と生活論 I	前期	2			○				4単位選択必修	
	伝統文化と生活論 II	前期	2			○					
	刀剣の思想	前期	2			○					
	武道の国際比較	後期	2	○							
	修行・東洋心身論	前期	2			○					
	武道文化史	前期	2			○					
	スポーツ史	後期	2	○			△	△			
	武道と所作・礼法	後期	2	○							
	スポーツ人類学	前期	2			○					
	身体論	後期	2			○					
書道	通年	4			○						
演習・実習	運動方法基礎実習球技系 I	前・後	1	○						1単位選択必修	
	運動方法基礎実習球技系 II	前・後	1	○							
	運動方法基礎実習球技系 III	前・後	1	○							
	運動方法基礎実習球技系 IV	前・後	1	○						1単位選択必修	
	運動方法基礎実習表現系 I	前・後	1	○					◎		
	運動方法基礎実習表現系 II	前・後	1	○							
	運動方法基礎実習表現系 III	前・後	1	○					◎		
	運動方法基礎実習表現系 IV	前・後	1	○							
	運動方法基礎実習表現系 V	前・後	1	○						1単位選択必修	
	運動方法基礎実習武道系 I	前・後	1	○							
	運動方法基礎実習武道系 II	前・後	1	○							
	運動方法基礎実習武道系 III	前・後	1	○						2単位選択必修 ※同一種目の「運動方法基礎実習」を修得済みであること	
	指導法実習球技系 I	後集注5)	2			○					
	指導法実習球技系 II	後集注5)	2			○					
	指導法実習球技系 III	前集注4)	2			○					
指導法実習球技系 IV	前集注4)	2			○						
指導法実習表現系 I	後集注4)	2			○						
指導法実習表現系 II	前集注4)	2			○						
指導法実習表現系 III	前集注4)	2			○		◎				
指導法実習表現系 IV	前集注4)	2			○						
指導法実習表現系 V	後集注5)	2			○						
指導法実習武道系 I	前集注4)	2			○						
指導法実習武道系 II	後集注5)	2			○						
指導法実習武道系 III	後集注4)	2			○						

次ページに続く

科目区分	授業科目	開講	単位	開講学年				スポーツ指導基礎資格 注1)	水泳指導員 注2)	健康運動指導士 注3)	備考
				1	2	3	4				
演習・実習	神経・筋系演習	前期	2		○						} 2単位選択必修
	呼吸循環系演習	前期	2		○				◎		
	動作分析演習	前期	2		○						
	演習	後期	2			○					} 6単位必修
	演習・卒業論文	通年	4				○				
	野外実習	集中	1	○							} 自由科目（要卒単位外）
	トレーニング実習	後期	1		○				◎		
	スポーツ施設演習	後期	2		○				◎		
	教育インターンシップ	前期	2		○						
	教育実習ⅠA（事前指導）	前期	1		○						
	教育実習ⅠB（事後指導）	後期				○					
	教育実習Ⅱ	後期	2			○					
教育実習Ⅲ	後期	2			○						
教職実践演習	後期	2				○					
関連科目	体力トレーニング論	後期	2		○		◎	◎	◎		
	統計によるものの見方	後期	2		○						
	統計と測定評価	後期	2		○				◎		
	メンタルヘルス	前期	2		○				◎		
	医療保険の経済学	後期	2			○					
	ニュースポーツ論	後期	2			○					
	スポーツの倫理	前期	2		○						
	組織・リーダーシップ論	後期	2			○					
	スポーツと言葉	前期	2		○						
	スポーツと法	前期	2		○			◎	◎		
知的障害児心理学	半期	2			○						

○で示す開講学年で履修することが望ましいが、その学年以降であれば履修することができる。ただし、履修学年が制限される科目もある。

注1) スポーツ指導基礎資格（財団法人日本体育協会公認）取得に必要な科目

◎：必修科目 △：選択必修科目（いずれか1科目を修得すること）

注2) 水泳指導員（財団法人日本体育協会公認）の受験資格取得に必要な科目

◎：必修科目 △：選択必修科目（いずれか1科目を修得すること）

注3) 健康運動指導士（財団法人健康・体力づくり事業財団認定）の受験資格取得に必要な科目

注4) 前期集中の略、前期に週2回授業を行う。

注5) 後期集中の略、後期に週2回授業を行う。

注6) 開講時期は、年度により変更される場合がある。

## スポーツリーダー／水泳指導員／健康運動指導士(健康体育学科のみ対象)

人間開発学部健康体育学科では、指定された科目の単位を修得することにより、①財団法人日本体育協会から公認スポーツ指導者養成講習会の免除適応コースの承認を受けた「スポーツリーダー(スポーツ指導基礎資格)」の資格、②同「水泳指導員」認定試験受験資格、③財団法人健康・体力づくり事業財団による「健康運動指導士」認定試験受験資格を取得することができます。

### スポーツリーダー(スポーツ指導基礎資格)【財団法人日本体育協会公認】

公認スポーツ指導者には、スポーツ医・科学の知識を活かしてスポーツを「安全に、正しく、楽しく」指導し、その本質的な楽しさや素晴らしさを伝えていくことが期待されている。スポーツ指導基礎資格としてのスポーツリーダーは、地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる人材として位置づけられている。さらに、スポーツリーダーの資格取得後、任意で競技別指導者資格やフィットネス資格などへステップアップすることも可能である。

健康体育学科の学生は、指定された科目の単位を修得することによって、スポーツリーダー(スポーツ指導基礎資格)の資格を取得することができる。

### 水泳指導員【財団法人日本体育協会公認】

水泳指導員は「スポーツリーダー(スポーツ指導基礎資格)」の発展として、水泳の専門知識を活かし、地域やスポーツクラブなどにおいて、子どもたちや初心者を対象に、個々人の年齢や性別などの対象に合わせた水泳指導者となることを目的とした資格である。特に発育発達期の子どもに対しては、総合的な動きづくりに主眼を置き、遊びの要素を取り入れた指導や、地域スポーツクラブなどが実施するスポーツ教室の指導、施設開放における利用者への指導等が期待されている。

健康体育学科の学生は、指定された科目の単位を修得することによって、各都道府県水泳協会などの加盟団体が行う水泳指導員の認定試験受験資格を取得することができる。

### 健康運動指導士【財団法人健康・体力づくり事業財団】

この資格は、生涯を通じた国民の健康づくりに寄与する目的で創設され、生活習慣病を予防し健康水準を保持・増進する観点において大きく貢献してきた。また、今般の医療制度改革においては、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして期待されている。特に平成20年度から実施されている特定健診・特定保健指導における運動・身体活動の支援は、健康運動指導士への期待を大きく高めることになった。具体的には、動脈硬化や心臓病、高血圧症、肥満などの生活習慣病の予防、健康の維持増進の観点から個々に対して安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成、さらにはこうした指導ができる医学的・運動生理学的な基礎知識を有した人材として求められている。

健康体育学科の学生は、指定された科目の単位を修得することによって、認定試験の受験資格を得ることができる。

### 受験上の注意

- ① スポーツリーダー(スポーツ指導基礎資格)と水泳指導員においては、別途修了証明書の発行料が必要になります。
- ② 水泳指導員と健康運動指導士においては、認定試験を受験(有料)する必要があります。
- ③ 健康運動指導士の科目においては、別途受講料(実費)を必要とする場合があります。